

表 1-1 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ (機械工学科) (令和 7 年度専攻科入学用)

[illegible]

理工系工学部カリキュラムポリシー

機械工学科は、ディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げた知識・技能などを育成するために、低学年では一般科目を中心に工学基礎科目を履修させ、学年が上がるにつれて専門科目を多く履く「くび型」の教育課程を構成します。そして、国立高等専門学校機構モデルプログラム（技術者が備えるべき能力）を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学修成果の到達目標に対する達成度により行います。

電気機械システム工学科は、ディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げた知識・技能などをめ、学生（工学）の学位取得可能性の教育課程を構成します。そして、国立高等専門学校機構モデルプログラム（技術者が備えるべき能力）を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学修成果の到達目標に対する達成度により行います。

講義:	29.5 單位	講義:	26.0 單位	講義:	24.0 單位	講義:	37.0 單位	講義:	43.5 單位	講義:	50.0 單位	講義:	18.0 單位
演習:	2.5 單位	演習:	3.0 單位	演習:	4.0 單位	演習:	1.5 單位	演習:	0.0 單位	演習:	2.0 單位	演習:	4.0 單位
実験実習:	5.0 單位	実験実習:	5.0 單位	実験実習:	9.0 單位	実験実習:	9.0 單位	実験実習:	23.0 單位	実験実習:	32.0 單位	実験実習:	22.0 單位

※ 生産システム・環境工学プログラムにおいて、対応する学習・教育到達目標の達成に重要な位置づけにある科目には○、特に重要な位置づけにある科目には◎を付している。

表1-2 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ（電気電子システム工学科）（令和7年度専攻科入学用）

[illegible]

カリキュラムポリシー
電気電子システム 工学科は、ディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げた知識・技能などを育成するために、低学年では一般教養科目を中心に工学基礎科目を履修し、学年が上がるにつれ専門科目を多く学ぶ「くび型」の教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学修成果の到達目標に対する達成度により行います。

電子機械システム 工学科は、ディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げた知識・技能などを求め、学士（工学）の学位が修得可能な教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学修成果の到達目標に対する達成度により行います。

※ 生産システム・環境工学プログラムにおいて、対応する学習・教育到達目標の達成に重要な位置づけにある科目には○、特に重要な位置づけにある科目には◎を付している。

表 1-3 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ（電子制御工学科）（令和 7 年度専攻科入学者用）

[illegible]

カリキュラムポリシー

学科

電子制御工学科は、ディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げる知識・技能などを育成するために、1学年では一般科目を中心に工学基礎科目を編み交ぜ、2学年が上がるにつれ専門科目を多く含む（きり型の教育課程）を編成します。そして、国立高等専門学校技術者モデルコア（ナショナル・技術者コア）が備えるべき能力「基礎力」を涵養する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学習成果の到達目標に対する達成度により行います。

專攻科

講義

疾

实践实训

講義:

實

練習：

講義:

陳

朕突習:

講義:

疾

練習：

講義：

東

实践实训:

摘要:

●

実習: 3

講義: 1

●

談實習： 2

※ 生産システム・環境工学プログラムにおいて、対応する学習・教育到達目標の達成に重要な位置づけにある科目には○、特に重要な位置づけにある科目には◎を付している

表 1－4（M） 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ （物質工学科，材料工学コース）（令和 7 年度専攻科入学者用）

学習・教育到達目標		分野別要件(総合複合・新領域の「基礎工学の知識・能力」)	学科第1学年 (R02年度)		学科第2学年 (R03年度)		学科第3学年 (R04年度)		学科第4学年 (R05年度)		学科第5学年 (R06年度)		生産システム・環境工学プログラム ^{※1}				専攻科第1学年 (R07年度)				専攻科第2学年 (R08年度)				分野別要件(総合複合・新領域の「基礎工学の知識・能力」)
記号	大項目		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	第1学期	第2学期	第3学期	第4学期	第1学期	第2学期	第3学期	第4学期	第1学期	第2学期	第3学期	第4学期	
(A)	人間の福祉と地球環境に配慮できる人間性と倫理観をもった技術者の育成	学習・教育到達目標(A)～(C) (学科) 1. 感性豊かな技術者としての能力育成 教養、工学基礎、倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を育成する授業を配置します。 (専攻科) 1. 感性豊かな技術者としての能力育成 教養、工学基礎、倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を育成する授業を配置します。	世界史	→	日本史	→					経済学(○) 哲学(○) 歴史学(○)	→	科学哲学(◎)												
			現代社会	→	現代倫理	→					文学	→													
(B)	すぐれたコミュニケーション能力と国際的視野をもち、多様な価値観を理解できる技術者の育成	学習・教育到達目標(B) (学科) 3. 人間の未来をきりひらく(創造的技術者としての能力育成 協働力、課題発見・解決力、及び未来志向で主体的に学び続ける人間力など「技術者が備えるべき分野横断的能力」を育成する授業を配置します。 (専攻科) 3. 人間の未来をきりひらく(創造的技術者としての能力育成 協働力、課題発見・解決力、及び未来志向で主体的に学び続ける人間力など「技術者が備えるべき分野横断的能力」を高める授業を配置します。	化学	→	化学	→									地域文化論										
			生命環境基礎	→		→																			
(C)	早期技術者教育の長を生かし、科学と技術の基礎を身につけた、健全で創造性豊かな技術者の育成	(数学、物理学) ①設計・システム系 ②情報・論理系 ③材料・バイオ系 ④力学系 ⑤社会基盤系	基礎数学A	→	基礎数学B	→	基礎数学C	→	微分積分Ⅰ	→	微分積分Ⅱ	→	応用数学ⅠA(◎) 応用数学ⅠC(◎)	→	応用数学ⅠB(◎)	→	統計学(◎)	→	化学システム制御(◎)	→					(数学、物理学) ①設計・システム系 ②情報・論理系 ③材料・バイオ系 ④力学系 ⑤社会基盤系
			課題数学	→	→	代数幾何	→	→	確率	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
(D)	工学の専門知識とものづくりのスキルを兼ね備え、特長技術を駆使できる技術者の育成	学習・教育到達目標(D) (学科) 2. 実能力のある技術者としての能力育成 専門的知識、ものづくりスキルなど「技術者が備えるべき分野横断の専門的能力」を育成する授業を配置します。 (専攻科) 2. 実能力のある技術者としての能力育成 物質工学の専門的知識、ものづくりスキルなど「技術者が備えるべき分野横断の専門的能力」を高める授業を配置します。	基礎情報処理	→	→	情報処理Ⅰ 基礎生物学	→	生物化学Ⅰ	→	生物化学Ⅱ(◎)	→	情報処理Ⅱ	→	化学システム制御(◎)	→										①設計・システム系 ②情報・論理系 ③材料・バイオ系 ④力学系 ⑤社会基盤系
				→		→	物理A	→	物理B	→	物理C	→	物理学ⅠA(◎) 物理学ⅠB(◎) 物理学ⅠC(◎)	→	物理学ⅡA(◎) 物理学ⅡB(◎)	→	量子物理(◎) 知的財産権概論(◎)	→	物理学Ⅲ(◎)	→	生命科学(◎)				
(E)	多面的思考力と計画力をもち、課題の解決と技術の開発を実行できる技術者の育成																								
(F)	地域の産業と社会に連携し、時代の要請に応えられる実能力のある技術者の育成																								
(G)	自発的学習能力を身につけ、継続的に自己啓発できる技術者の育成																								

カリキュラムポリシー

学科

物質工学科は、ディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げた知識・技能などを育成するために、低学年では一般科目を中心に工学基礎科目を織り交ぜ、学年が上がるにつれ専門科目を多く学ぶ「くび型」の教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学修成果の到達目標に対する達成度により行います。

専攻科

物質工学専攻は、ディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げた知識・技能などを高め、学士(工学)の学位が取得可能な教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実習、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学修成果の到達目標に対する達成度により行います。

講義： 29.0 単位
演習： 5.0 単位
実験実習： 3.0 単位

講義： 27.0 単位
演習： 1.0 単位
実験実習： 4.0 単位

講義： 25.0 単位
演習： 0.0 単位
実験実習： 8.5 単位

講義： 34.0 単位
演習： 2.0 単位
実験実習： 12.0 単位

講義： 45.0 単位
演習： 0.0 単位
実験実習： 25.0 単位

講義： 42.0 単位
演習： 2.0 単位
実験実習： 32.0 単位

講義： 24.0 単位
演習： 4.0 単位
実験実習： 22.0 単位

科目名 = 講義

科目名 = 演習

科目名 = 実験・実習

※ 生産システム・環境工学プログラムにおいて、対応する学習・教育到達目標の達成に重要な位置づけにある科目には○、特に重要な位置づけにある科目には◎を付している。

表 1－4（Ｂ） 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ（物質工学科、生物応用コース）（令和 7 年度専攻科入学者用）

学習・教育到達目標		分野別要件（総合複合・新領域の「基礎工学の知識・能力」）	学科第1学年（R02年度）		学科第2学年（R03年度）		学科第3学年（R04年度）		学科第4学年（R05年度）		学科第5学年（R06年度）		生産システム・環境工学プログラム ^{※1}				専攻科第1学年（R07年度）				専攻科第2学年（R08年度）				分野別要件（総合複合・新領域の「基礎工学の知識・能力」）
記号	大項目		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	第1学期	第2学期	第3学期	第4学期	第1学期	第2学期	第3学期	第4学期					
(A)	人間の福祉と地球環境に配慮できる人間性と倫理観をもった技術者の育成	学習・教育到達目標(A)～(C) (学科) 1. 感性豊かな技術者としての能力育成 2. 教養、工学基礎、倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を育成する授業を配置します。 (専攻科) 1. 感性豊かな技術者としての能力育成 2. 教養、工学基礎、倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を高める授業を配置します。	世界史 現代社会	→	日本史 現代倫理	→					経済学○ 哲学○ 歴史学○	→	科学哲学◎												
			化学 生命環境基礎 音楽 美術	→	化学	→			文学○	→							地域文化論								
(B)	すぐれたコミュニケーション能力と国際的視野をもつ、多様な価値観を理解できる技術者の育成	学習・教育到達目標(B) (学科) 3. 人類の未来をきりひら（創造的技術者としての能力育成 協働力、課題発見・解決力、及び未来志向で主体的に学び続ける人間力など「技術者が備えるべき分野横断的能力」を育成する授業を配置します。 (専攻科) 3. 人類の未来をきりひら（創造的技術者としての能力育成 協働力、課題発見・解決力、及び未来志向で主体的に学び続ける人間力など「技術者が備えるべき分野横断的能力」を育成する授業を配置します。	国語	→	国語	→			国語◎	→						日本語文化◎									
			英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC 英語多読	→	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC 英語多読	→	英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅢC 英語多読	→	英語Ⅳ コミュニケーション特講◎ 英語Ⅰ◎	→	英語ⅤA◎ 英語ⅤB◎ 英語ⅤC◎ 英語ⅤD◎ 英語ⅤE◎ 英語特講◎ 独語Ⅱ◎ 中国語◎ 韓国語◎ 卒業研究◎	→	総合英語◎			英米文化論◎			実用英語◎						
(C)	早期技術者教育の特長を生かし、科学と技術の基礎を身につけた、健全で創造性豊かな技術者の育成	1. 感性豊かな技術者としての能力育成 2. 教養、工学基礎、倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を育成する授業を配置します。 (専攻科) 1. 感性豊かな技術者としての能力育成 2. 教養、工学基礎、倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を育成する授業を配置します。 ①設計・システム系 ②情報・論理系 ③材料・バイオ系 ④力学系 ⑤社会システム系	基礎数学A 課題数学	→	基礎数学C 代数幾何	→	微分積分Ⅰ 線形	→	微分積分Ⅱ	→	応用数学ⅠA◎ 応用数学ⅠC◎	→	応用数学Ⅱ◎	→	応用解析◎	→	応用代数◎								
			基礎情報処理	→	基礎情報処理 基礎生物工学	→	生物化学Ⅰ 物理A 物理B 物理学実験◎	→	生物化学Ⅱ◎ 物理学ⅠA◎ 物理学ⅠB◎	→	情報処理Ⅱ 化学システム制御◎ 統計学◎ 物理学ⅡA◎ 化学システム制御◎	→	物理学ⅡB◎	→	量子物理学◎	→	物理学ⅡC◎			生命科学◎					
(D)	工学の専門知識とものづくりのスキルを兼ね備え、情報技術を駆使できる技術者の育成	学習・教育到達目標(D) (学科) 2. 実践力のある技術者としての能力育成 専門的知識、ものづくりスキルなど「技術者が備えるべき分野別の専門的能力」を育成する授業を配置します。 (専攻科) 2. 実践力のある技術者としての能力育成 物質工学の専門的知識、ものづくりスキルなど「技術者が備えるべき分野別の専門的能力」を高める授業を配置します。		→	分析化学 無機化学Ⅰ 物理化学Ⅰ 有機化学Ⅰ 物理化学演習	→	無機化学Ⅱ◎ 物理化学Ⅱ◎ 有機化学Ⅱ◎ 高分子化学◎ 応用微生物学◎	→	機器分析◎ 無機化学Ⅱ◎ 物理化学Ⅱ◎ 有機化学Ⅱ◎ 高分子化学◎ 化学工学Ⅰ◎ 分子生物学◎ 科学技術英語Ⅰ 論文特講◎ 生体特講工学◎	→	構造解析Ⅰ◎ 構造解析Ⅱ◎ 高分子物性◎ 化学工学Ⅱ◎ 反応工学◎ 環境化学◎ 科学技術英語Ⅱ◎ 論文特講◎ 生体特講工学◎	→	構造解析Ⅱ◎ 高分子物性◎ 食品化学◎ 食品製造工学◎ 品質管理◎ 環境エネルギー工学◎ 高機能工学◎ 生産システム工学◎	→	遠隔化学◎ 化学反応論◎ 輸送現象論◎ 食品栄養学◎ 環境工学◎ 生産システム工学◎	→	北国無機化学◎ 北国有機化学◎ 北国物理化学◎ 北国化学反応論◎ 輸送現象論◎ 食品栄養学◎ 環境工学◎ 生産システム工学◎	→	北国無機化学◎ 北国有機化学◎ 北国物理化学◎ 北国化学反応論◎ 輸送現象論◎ 食品栄養学◎ 環境工学◎ 生産システム工学◎	→	北国無機化学◎ 北国有機化学◎ 北国物理化学◎ 北国化学反応論◎ 輸送現象論◎ 食品栄養学◎ 環境工学◎ 生産システム工学◎	→	北国無機化学◎ 北国有機化学◎ 北国物理化学◎ 北国化学反応論◎ 輸送現象論◎ 食品栄養学◎ 環境工学◎ 生産システム工学◎		
			基礎化学演習Ⅰ 物質工学概論 物質工学実験(化学)レポート作成法	→	基礎化学演習Ⅱ 物質工学実験(分析)	→	物質工学実験(無機・有機・生体) 物質工学実験(物化)◎ 創造実験◎	→	物質工学実験(物化)◎ 創造実験◎	→	物質工学実験(物化)◎ 創造実験◎	→	物質工学実験(物化)◎ 創造実験◎	→	物質工学実験(物化)◎ 創造実験◎	→	物質工学実験(物化)◎ 創造実験◎	→	物質工学実験(物化)◎ 創造実験◎	→	物質工学実験(物化)◎ 創造実験◎	→	物質工学実験(物化)◎ 創造実験◎	→	物質工学実験(物化)◎ 創造実験◎
(E)	多面的思考力と計画力をもつ、課題の解決と技術の開発を実行できる技術者の育成	学習・教育到達目標(E) (学科) 3. 実践力のある技術者としての能力育成 専門的知識、ものづくりスキルなど「技術者が備えるべき分野別の専門的能力」を育成する授業を配置します。 (専攻科) 3. 実践力のある技術者としての能力育成 物質工学の専門的知識、ものづくりスキルなど「技術者が備えるべき分野別の専門的能力」を育成する授業を配置します。		→	アントレプレナーシップ論 技術科学フロンティア概論◎ 自己啓発型課題学習	→	アントレプレナーシップ論 技術科学フロンティア概論◎ 自己啓発型課題学習	→	アントレプレナーシップ論 技術科学フロンティア概論◎ 自己啓発型課題学習	→	アントレプレナーシップ論 技術科学フロンティア概論◎ 自己啓発型課題学習	→	アントレプレナーシップ論 技術科学フロンティア概論◎ 自己啓発型課題学習	→	アントレプレナーシップ論 技術科学フロンティア概論◎ 自己啓発型課題学習	→	アントレプレナーシップ論 技術科学フロンティア概論◎ 自己啓発型課題学習	→	アントレプレナーシップ論 技術科学フロンティア概論◎ 自己啓発型課題学習	→	アントレプレナーシップ論 技術科学フロンティア概論◎ 自己啓発型課題学習	→	アントレプレナーシップ論 技術科学フロンティア概論◎ 自己啓発型課題学習		
				→	アントレプレナーシップ論 技術科学フロンティア概論◎ 自己啓発型課題学習	→	アントレプレナーシップ論 技術科学フロンティア概論◎ 自己啓発型課題学習	→	アントレプレナーシップ論 技術科学フロンティア概論◎ 自己啓発型課題学習	→	アントレプレナーシップ論 技術科学フロンティア概論◎ 自己啓発型課題学習	→	アントレプレナーシップ論 技術科学フロンティア概論◎ 自己啓発型課題学習	→	アントレプレナーシップ論 技術科学フロンティア概論◎ 自己啓発型課題学習	→	アントレプレナーシップ論 技術科学フロンティア概論◎ 自己啓発型課題学習	→	アントレプレナーシップ論 技術科学フロンティア概論◎ 自己啓発型課題学習	→	アントレプレナーシップ論 技術科学フロンティア概論◎ 自己啓発型課題学習	→	アントレプレナーシップ論 技術科学フロンティア概論◎ 自己啓発型課題学習		
(F)	地域の産業と社会に連携し、時代の要請に応えられる実践力のある技術者の育成	1. 感性豊かな技術者としての能力育成 2. 教養、工学基礎、倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を育成する授業を配置します。 (専攻科) 1. 感性豊かな技術者としての能力育成 2. 教養、工学基礎、倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を育成する授業を配置します。		→	インターンシップⅠ◎ インターンシップⅡ◎	→	インターンシップⅠ◎ インターンシップⅡ◎	→	インターンシップⅠ◎ インターンシップⅡ◎	→	インターンシップⅠ◎ インターンシップⅡ◎	→	インターンシップⅠ◎ インターンシップⅡ◎	→	インターンシップⅠ◎ インターンシップⅡ◎	→	インターンシップⅠ◎ インターンシップⅡ◎	→	インターンシップⅠ◎ インターンシップⅡ◎	→	インターンシップⅠ◎ インターンシップⅡ◎	→	インターンシップⅠ◎ インターンシップⅡ◎	→	インターンシップⅠ◎ インターンシップⅡ◎
				→	インターンシップⅠ◎ インターンシップⅡ◎	→	インターンシップⅠ◎ インターンシップⅡ◎	→	インターンシップⅠ◎ インターンシップⅡ◎	→	インターンシップⅠ◎ インターンシップⅡ◎	→	インターンシップⅠ◎ インターンシップⅡ◎	→	インターンシップⅠ◎ インターンシップⅡ◎	→	インターンシップⅠ◎ インターンシップⅡ◎	→	インターンシップⅠ◎ インターンシップⅡ◎	→	インターンシップⅠ◎ インターンシップⅡ◎	→	インターンシップⅠ◎ インターンシップⅡ◎	→	インターンシップⅠ◎ インターンシップⅡ◎
(G)	自発的学習能力を身につけ、継続的に自己啓発できる技術者の育成	1. 感性豊かな技術者としての能力育成 2. 教養、工学基礎、倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を育成する授業を配置します。 (専攻科) 1. 感性豊かな技術者としての能力育成 2. 教養、工学基礎、倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を育成する授業を配置します。		→	健康・体育	→	健康・体育	→	健康・体育	→	健康・体育◎ 創造実験◎	→	健康・体育◎ 創造実験◎	→	健康・体育◎ 創造実験◎	→	健康・体育◎ 創造実験◎	→	健康・体育◎ 創造実験◎	→	健康・体育◎ 創造実験◎	→	健康・体育◎ 創造実験◎	→	健康・体育◎ 創造実験◎
				→	健康・体育	→	健康・体育	→	健康・体育	→	健康・体育	→	健康・体育	→	健康・体育	→	健康・体育	→	健康・体育	→	健康・体育	→	健康・体育	→	健康・体育

カリキュラムポリシー

学科

物質工学科は、ディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げた知識・技能などを育成するために、低学年では一般科目を中心に工学基礎科目を繰り交ぜ、学年が上がるにつれ専門科目を多くする「くびき型」の教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学習成果の到達目標に対する達成度により行います。

専攻科

物質工学専攻は、ディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げた知識・技能などを高め、学士（工学）の学位が取得可能な教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学習成果の到達目標に対する達成度により行います。

講義： 29.0 単位
演習： 5.0 単位
実験実習： 3.0 単位

講義： 27.0 単位
演習： 2.0 単位
実験実習： 4.0 単位

講義： 25.0 単位
演習： 1.0 単位
実験実習： 8.5 単位

講義： 34.0 単位
演習： 0.0 単位
実験実習： 12.0 単位

講義： 45.0 単位
演習： 0.0 単位
実験実習： 25.0 単位

講義： 42.0 単位
演習： 2.0 単位
実験実習： 32.0 単位

講義： 24.0 単位
演習： 4.0 単位
実験実習： 22.0 単位

科目名 = 講義

科目名 = 演習

科目名 = 実験・実習

※ 生産システム・環境工学プログラムにおいて、対応する学習・教育到達目標の達成に重要な位置づけにある科目には○、特に重要な位置づけにある科目には◎を付している。

表 1－5 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ（環境都市工学科）（令和 7 年度専攻科入学者用）

学習・教育到達目標			分野別要件（総合複合・新領域の「基礎工学の知識・能力」）		学科第1学年（R02年度）		学科第2学年（R03年度）		学科第3学年（R04年度）		学科第4学年（R05年度）		学科第5学年（R06年度）		生産システム・環境工学プログラム [※]				専攻科第1学年（R07年度）				専攻科第2学年（R08年度）				分野別要件（総合複合・新領域の「基礎工学の知識・能力」）
記号	大項目	カリキュラムポリシーと学習・教育到達目標との関係	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	第1学期	第2学期	第3学期	第4学期	第1学期	第2学期	第3学期	第4学期					
(A)	人間の福祉と地球環境に配慮できる人間性と倫理観をもった技術者の育成	学習・教育到達目標（A）～（C） （学修） 1. 感性ゆたかな技術者としての能力育成 2. 基礎、工学基礎、倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を育成する授業を配置します。 （専攻科） 1. 感性ゆたかな技術者としての能力育成 2. 基礎、工学基礎、倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を高める授業を配置します。	世界史 現代社会		日本史 現代倫理								経済学（○） 哲学（○） 歴史学（○）		科学哲学（◎）												
			化学 生命環境基礎 音楽 美術		化学 基礎環境工学				文学（○）							科学哲学（◎）		地域文化論									
(B)	すぐれたコミュニケーション能力と国際的視野をもち、多様な価値観を理解できる技術者の育成	学習・教育到達目標（B） （学修） 3. 人間の未来をきりひらく創造的技術者としての能力育成 （学修） 3. 人間の未来をきりひく創造的技術者としての能力育成 （専攻科） 3. 人間の未来をきりひく創造的技術者としての能力育成	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC 英語多読		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC 英語多読		英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅢC 英語多読		英語Ⅳ コミュニケーション特講（◎）		英語Ⅳ コミュニケーション特講（◎）		英語Ⅳ コミュニケーション特講（◎）		総合英語（◎）		日本書語文化（◎）										
(C)	基礎技術者教育の基盤をもち、科学と技術の基礎を身につけた、健全で創造的ゆたかな技術者の育成	学習・教育到達目標（D） （学修） 5. 基礎技術者教育の基盤をもち、科学と技術の基礎を身につけた、健全で創造的ゆたかな技術者の育成 （専攻科） 5. 基礎技術者教育の基盤をもち、科学と技術の基礎を身につけた、健全で創造的ゆたかな技術者の育成	基礎数学A 課題数学	基礎数学B	基礎数学C 代数幾何	微分積分Ⅰ	微分積分Ⅱ 確率		応用数学ⅠA（◎） 応用数学ⅠC（◎）	応用数学ⅠB（◎）	統計学（◎） 物理学ⅠA（◎） 構造設計Ⅰ（◎）	応用数学Ⅱ（◎） 物理学ⅡB（◎） 情報処理Ⅱ（◎）	応用解析（◎） 量子物理学（◎）	応用代数（◎） 物理学Ⅱ（◎）	応用解析（◎） 量子物理学（◎）	応用解析（◎） 量子物理学（◎）	応用解析（◎） 量子物理学（◎）	応用解析（◎） 量子物理学（◎）	応用解析（◎） 量子物理学（◎）	応用解析（◎） 量子物理学（◎）	応用解析（◎） 量子物理学（◎）	応用解析（◎） 量子物理学（◎）	応用解析（◎） 量子物理学（◎）	応用解析（◎） 量子物理学（◎）	応用解析（◎） 量子物理学（◎）		
			基礎情報処理		情報処理Ⅰ		構造力学Ⅰ 構造力学演習	物理学ⅠA（◎） 物理学ⅠB（◎）	物理学ⅠA（◎） 物理学ⅠB（◎）	物理学ⅠA（◎） 物理学ⅠB（◎）	物理学ⅠA（◎） 物理学ⅠB（◎）	物理学ⅠA（◎） 物理学ⅠB（◎）	物理学ⅠA（◎） 物理学ⅠB（◎）	物理学ⅠA（◎） 物理学ⅠB（◎）	物理学ⅠA（◎） 物理学ⅠB（◎）	物理学ⅠA（◎） 物理学ⅠB（◎）	物理学ⅠA（◎） 物理学ⅠB（◎）	物理学ⅠA（◎） 物理学ⅠB（◎）	物理学ⅠA（◎） 物理学ⅠB（◎）	物理学ⅠA（◎） 物理学ⅠB（◎）	物理学ⅠA（◎） 物理学ⅠB（◎）	物理学ⅠA（◎） 物理学ⅠB（◎）	物理学ⅠA（◎） 物理学ⅠB（◎）	物理学ⅠA（◎） 物理学ⅠB（◎）	物理学ⅠA（◎） 物理学ⅠB（◎）	物理学ⅠA（◎） 物理学ⅠB（◎）	
(D)	工学の専門知識とものづくりのスキルをかね備え、情報技術を駆使できる技術者の育成	学習・教育到達目標（E） （学修） 2. 実践力のある技術者としての能力育成 専門的知識、ものづくりスキルなど「技術者が備えるべき分野別の専門的能力」を育成する授業を配置します。 （専攻科） 2. 実践力のある技術者としての能力育成 専門的知識、ものづくりスキルなど「技術者が備えるべき分野別の専門的能力」を育成する授業を配置します。	基礎都市概論		基礎都市工学基礎実験		物理学実験（◎）								知的財産権概論（◎）												
			測量学Ⅰ 環境都市概論	測量学Ⅱ 測量学実習Ⅰ		測量学Ⅲ 測量学実習Ⅱ	建設材料 水理学Ⅰ 水化学 地盤工学Ⅰ	建設技術史 計画学	応用測量学（◎） 鉄筋コンクリート工学A（◎） 水理学ⅡA（◎） 水理学ⅡB（◎） 地盤工学ⅡA（◎）	応用測量学（◎） 鉄筋コンクリート工学B（◎） 水理学ⅡB（◎） 地盤工学ⅡB（◎）	河川水理学（◎） 環境工学（◎）		環境エネルギー工学（◎） 環境都市工学（◎）		環境エネルギー工学（◎） 環境都市工学（◎）		環境エネルギー工学（◎） 環境都市工学（◎）		環境エネルギー工学（◎） 環境都市工学（◎）		環境エネルギー工学（◎） 環境都市工学（◎）		環境エネルギー工学（◎） 環境都市工学（◎）		環境エネルギー工学（◎） 環境都市工学（◎）		環境エネルギー工学（◎） 環境都市工学（◎）
(E)	多面的思考力と計画力をもち、課題の解決と技術の開発を実行できる技術者の育成	学習・教育到達目標（F） （学修） 3. 人間の未来をきりひく創造的技術者としての能力育成 専門的知識、ものづくりスキルなど「技術者が備えるべき分野別の専門的能力」を育成する授業を配置します。 （専攻科） 3. 人間の未来をきりひく創造的技術者としての能力育成 専門的知識、ものづくりスキルなど「技術者が備えるべき分野別の専門的能力」を育成する授業を配置します。																									
(F)	地域の産業と社会に連携し、時代の要請に応えられる実践力のある技術者の養成	学習・教育到達目標（G） （学修） 4. 地域の産業と社会に連携し、時代の要請に応えられる実践力のある技術者の養成 （専攻科） 4. 地域の産業と社会に連携し、時代の要請に応えられる実践力のある技術者の養成																									
(G)	自発的学習能力を身につけ、継続的に自己発展できる技術者の育成	学習・教育到達目標（H） （学修） 5. 自発的学習能力を身につけ、継続的に自己発展できる技術者の育成 （専攻科） 5. 自発的学習能力を身につけ、継続的に自己発展できる技術者の育成																									

カリキュラムポリシー

学科

環境都市工学科は、ディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げた知識・技能などを育成するために、低学年では一般科目を中心に工学基礎科目を履修させ、学年が上がるにつれ専門科目を多く学ぶ「くび型」の教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実習、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学修成果の到達目標に対する達成度により行います。

専攻科

環境都市工学専攻は、ディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げた知識・技能などを高め、学士（工学）の学位が取得可能な教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実習、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学修成果の到達目標に対する達成度により行います。

講義： 31.0 単位
演習： 3.0 単位
実験実習： 3.0 単位

科目名 = 講義

講義： 28.0 単位
演習： 1.0 単位
実験実習： 3.0 単位

科目名 = 演習

講義： 29.0 単位
演習： 1.0 単位
実験実習： 5.5 単位

科目名 = 実験・実習

講義： 36.0 単位
演習： 0.0 単位
実験実習： 8.0 単位

講義： 44.0 単位
演習： 0.0 単位
実験実習： 25.0 単位

講義： 46.0 単位
演習： 2.0 単位
実験実習： 32.0 単位

講義： 14.0 単位
演習： 4.0 単位
実験実習： 22.0 単位

※ 生産システム・環境工学プログラムにおいて、対応する学習・教育到達目標の達成に重要な位置づけにある科目には○、特に重要な位置づけにある科目には◎を付している。